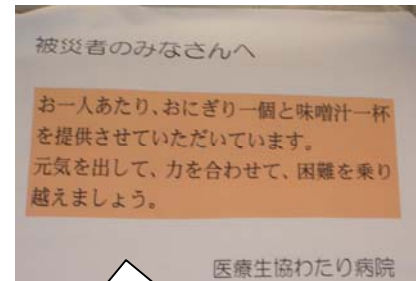


人工透析患者さん28人受入

被災以来の、130人の被災者の方が外来を受診し、家を流されて避難してきた小児の入院なども発生しています。地元の患者さんでも高齢者の方を中心に水や食べ物が足りず、「朝薬を飲むときに水を飲んだだけ」という方もいました。また、人工透析を必要とする被災者の方を28人受け入れることになり、1台の機械で1日に2人行っているところ、スタッフの頑張りで稼働時間を延長し、3人に行っています。患者さんの内8人は当面の滞在先が確保できず、一部家族を含めて組合員ルームを開放することにしました。今日は、研修医を含め5人の医師を中心にチームを作り、9つの避難所を訪問しています。様々なドラマが生まれています。



外に設置した被災者のみなさんの受付・問診場所。上の写真の張り紙がしてあります

組合員のみなさんの動き

3/16 佐藤正子理事から丹治支部長と連名のお見舞い文書を持って組合員訪問をしているとのFaxで報告がありました。「3/13より組合員さんを回っています。思ったより近所隣りとの助け合いがあって、特に『困難』は出ていません。飯坂線西側ではまだ水が出ていません。・中略・。原発への怒りは大きく『無くす運動をしよう』という声が沢山ありました。」

阿部ツギ子理事は、渡利支部の運営委員さんとも協力して、お茶会で把握している1人暮らし高齢者などに連日電話を入れて、困ったことはないか確認しています。

齋藤豊子理事は、震災翌日の丹治院長を中心とする避難所訪問に同行していただきました。外来ボランティア・再来受付機ボランティアは、可能な組合員のみなさんの協力で継続しています。

困難を励まし合って乗り切るために、各地の動きを教えてください!

Fax 024-5 2 1 - 3 4 7 5 024-5 2 2 - 1 2 3 6 メール katuyuki@fmc.u-coop.or.jp

全国から支援物資が届いています

各地の医療生協から支援物資が続々届いています。使わないものは市の対策本部や避難所訪問の際に持参しています。昨日は静岡から届いたオレンジを八切りに、八朔は砂糖煮にして小袋107袋に入れ、今日は缶入りお粥288缶、生理用品、毛布46枚などを届けています。

あったか食堂 と 元気の部屋

病院に泊っている職員や子連れで出勤している職員、被災者の方の炊き出しをしている食堂は「あったか食堂」と「元気の部屋」と命名。被災して二本松で被爆ショックを受け、わたり病院に辿り着いた透析患者さんは、朝から何も食べていなかったと泣ぐんでいました。